

10月は食品ロス削減月間

10月30日 食品ロス削減の日

日本の食品ロス量は年間522万トン。
1人あたり1日お茶碗1杯、国全体ではお茶碗1億杯以上の
食べものを毎日捨てていることになります。
その結果、限りある資源の減少や環境負荷の増大・
地球温暖化などあなた自身の生活に影響を及ぼしています。



食品ロス問題なんて自分には関係ない
と思っていないませんか。



広報

Dazaifu City PR Magazine

だざいふ

2022
(令和4年)

10

No.1013

【関連特集】P7~9

ポスターデザイン/田村 貞夫



事業者と家庭からの「もったいない」食品ロスを減らすため、関係省庁が連携し国民運動
[INO-FOODLOSS PROJECT]を展開しており、この運動のロゴマークが「ろすのん」です。
ろすのんは、食品ロス削減を積極的に取り組む意思表示として使うことができます。



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



出典:消費者庁

「令和4年度食品ロス削減月間のポスター」を加工して作成

※掲載記事は編集作業の都合上9月13日時点までの情報に基づきます。配布時とのずれなどございましたらご了承ください。

くす
の記



先日発表の全国住みたい街ランキングで昨年の233位から51位に急上昇しました。九州沖縄では福岡市や那覇市に次ぐ4位です。
主催者側の注目事項から中学校完全給食の前進、下水道料金の減額、ふるさと納税の躍進などが評価されたと分析しております。
軌を一にして、市内の小中高大生の全国的な活躍の報告が増えております。コロナ禍の逆境をばねにした姿は頼もしい限りです。
今後も世界に羽ばたく人材育成プロジェクトのもとあらゆる分野で輝く青少年を後押しすべくイベントや奨励を進めて参ります。
令和発祥の都太宰府梅プロジェクトも順調に進んでおります。本年度の目玉梅の成分分析も官学連携でキックオフ致しました。
意欲的な製品も続々出上来上がっており、今後も植栽収穫、商品開発、販売までの好循環を創り、経済税收効果の向上を図ります。

太宰府市長
楠田 大蔵